

さけます情報

北太平洋と日本におけるさけます類の資源と増殖

たかはし まさや
高橋 昌也 (北海道区水産研究所 さけます生産技術部)

2016年の北太平洋

漁獲数

2017年に公表されたNPAFC統計データによると、2016年1-12月の北太平洋におけるさけます類の漁獲数は4億3,686万尾で、前年5億931万尾の86%でした(図1A)。

魚種別に見ると、カラフトマスが2億6,448万尾で最も多く、全体の61%(前年比84%)を占めています。次いでサケが8,838万尾(構成比20%,前年比81%)、ベニザケが7,519万尾(構成比17%,前年比101%)と続き、これら3魚種で全体の約98%を占めています。ギンザケとマスノスケは、それぞれ730万尾(前年比81%)、145万尾(前年比71%)となりました(図1A)。地域別では、ロシアが2億7,698万尾と最も多く、以下、アラ

スカ1億1,296万尾、日本3,843万尾、カナダ627万尾、アラスカ以外の米国(ワシントン、オレゴン、カリフォルニア、アイダホ州)215万尾、韓国9万尾と続いています(図1B)。

人工ふ化放流数

2016年1-12月に各国から人工ふ化放流された幼稚魚数は51億2,813万尾で、前年51億9,591万尾の99%でした(図1C)。

魚種別ではサケが33億3,968万尾で6割以上を占め、これに次ぐカラフトマス12億2,689万尾と合わせると全体の9割近くを占めます(図1C)。地域別では日本が18億9,792万尾、アラスカ16億6,239万尾、ロシア9億6,728万尾、カナダ2億8,172万尾、アラスカ以外の米国2億9,687万尾、韓国2,195万尾となっています(図1D)。

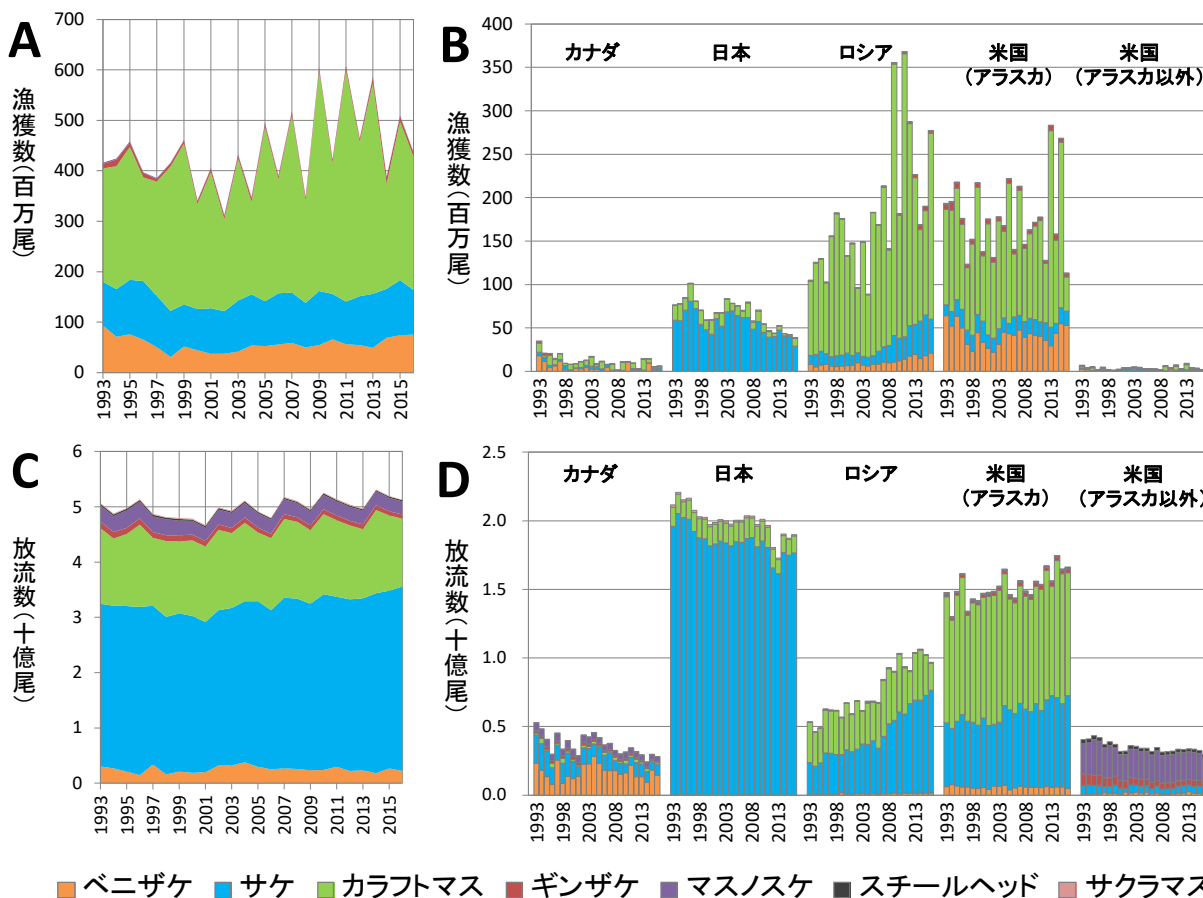


図1. 北太平洋におけるさけます類の魚種別漁獲数(A)、地域別魚種別の漁獲数(B)、魚種別人工ふ化放流数(C)及び地域別魚種別の人工ふ化放流数(D)。

A及びBは「NPAFC Pacific salmonid catch statistics (updated 31 July 2017)」, C及びDは「NPAFC Pacific salmonid hatchery release statistics (updated 31 July 2017)」より作成(参照 2017-10-25)。アラスカ以外の米国はワシントン、オレゴン、カリフォルニア、アイダホ州の合計。韓国は他国に比べ漁獲数・放流数ともわずかなため図中では省略。

2017年漁期の日本

サケ

2017年漁期(2017年8月~2018年2月)の来遊数(沿岸漁獲と河川捕獲の合計)は12月31日現在で2,244万尾、前年同期比71%となっています。このうち北海道では1,737万尾(前年同期比67%)、本州太平洋側では440万尾(前年同期比88%)と、ともに近年では最も低い水準であった前年度を更に下回りました。一方で本州日本海側では67万尾(前年同期比104%)と、前年をやや上回っています(図2)。採卵数は、12月31日現在で17億6,742万粒と、前年同期の96%となっています。このうち北海道は10億5,949万粒であり、採卵計画数の87%にとどまっています。本州では、12月31日現在で7億793万粒(前年同期比109%)が確保されています。全国の放流数は計画(17億6,443万尾)を下回る見込みです。

カラフトマス

主産地の北海道における2017年漁期の来遊数は124万尾(前年比14%)と、1983年漁期以降で最も少ない結果となりました。カラフトマスは2年で回帰するため、偶数年級と奇数年級で異なる繁殖集団を形成していると考えられます。偶数年級の来遊数は昨年度急激に増加しましたが、奇数年級は2007年漁期以降今年漁期に至るまで、急激な減少傾向を示しています(図3)。採卵数は1億3,289万粒で、計画数の77%となりました。放流数も計画(1億3,840万尾)を下回る1億600万尾ほどになると見込まれます。

サクラマス

2017年漁期の北海道における河川捕獲数は3,414尾(前年度比49%)と、1975年以降で最も少ない結果となりました。地域別には日本海区では前年比24%と大きく落ち込み、オホーツク海区も前年比76%に留まりました。採卵数は303万粒で、計画数の60%となりました。なお、2017年漁期の本州河川捕獲数については現在確認中です(図4)。

ベニザケ

2017年漁期の北海道3河川(安平川・静内川・釧路川)における河川捕獲数は381尾で前年比142%となりました。

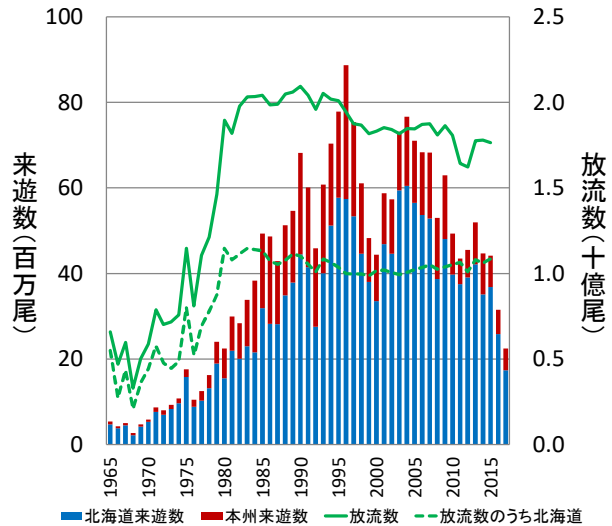


図2. 日本におけるサケの来遊数と人工ふ化放流数. 2017年漁期来遊数は12月31日現在.

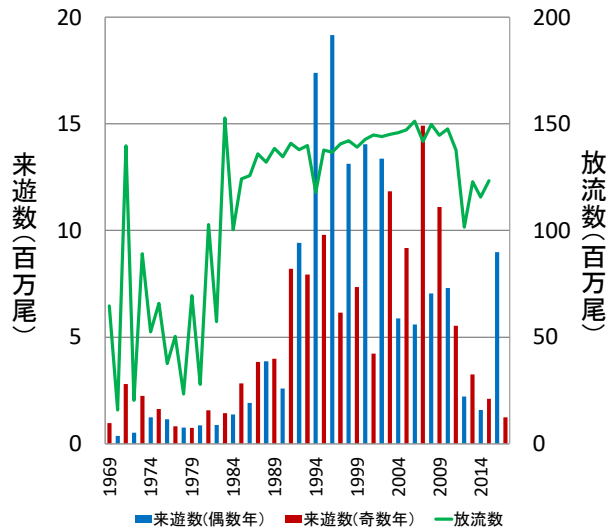


図3. 日本におけるカラフトマスの来遊数と人工ふ化放流数.

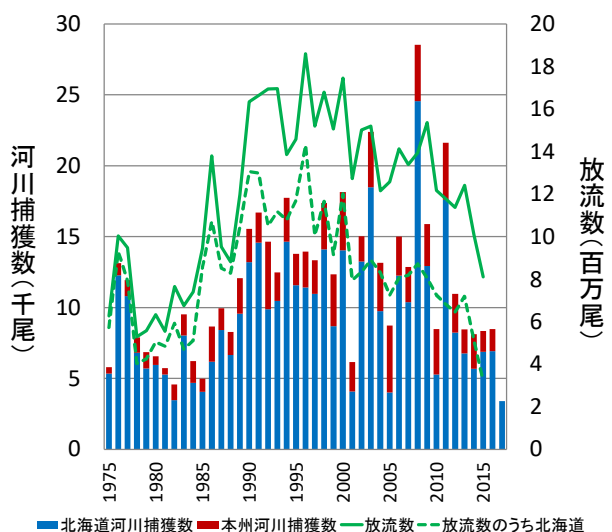


図4. 日本におけるサクラマスの河川捕獲数と人工ふ化放流数. 2017年漁期の本州河川捕獲数は確認中.